

市民参画及び協働によるまちづくり実施計画 新シート(案)

両シート共通部分		60	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」					
		市民活動部	課名	協働推進課(関係課:管財課、公園緑地課、土木管理課、道路維持課、河川課他)					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	基本施策	4-03	生活・環境衛生			
	施策	4-03-01	環境美化の推進	展開方向	4-03-01	環境美化活動の推進			
	事業	アダプトプログラム推進事業							
関連計画等									
(単位:千円)		H28	H29	H30	H31	H32			
計画額									
決算額									
協働の相手			自治会・ボランティア団体・事業者等		協働の形態		事業協力		
実施の時期			通年		事業開始年度		平成20年度		
区分		継続	特記事項	特になし					
事業の目的・概要		誰もが訪れたいくなり、末永く暮らしたくなる魅力あふれる奈良市を実現するための“もてなしのまちづくり”を市、市民、事業者が協働して推進する。“もてなしのまちづくり”を総合的かつ計画的に推進するための奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画を実施することにより、市民、事業者の取組への参加を促進する。							
達成目標		目標	活動団体回数の増						
		目標値	単位	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			回	目標値	2244	2268			
			実績値						
実施計画部分			P<計画>	D<実行>	C<評価>	A<改善>			
市(行政)		年間の事業計画	活動団体の募集 美化活動の支援	活動報告書の確認 意見・要望の整理	事業の改善点 について協議				
平成28年度 実施計画		自治会・ボランティア 団体・事業者等	年間の活動計画	美化活動	活動報告書の提出	団体内で協議			
		美化ボランティアの募集を随時行い、新たに5団体と合意書を締結した。また、11月には「アダプトだより第3号」を発行し、市の施設等に配置するとともに、市ホームページに掲載した。活動の幅を広げるため、支給する種の種類を増やしたり苗を支給した。							
事業評価部分		協働の原則に基づいた評価項目						評価	
		対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。				C		
A B C D E		相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。				A		
← →		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。				A		
		自立化	依存や癒着の関係に陥ることのないよう、協働相手の自立化を進められたか。				C		
		目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。				A		
		相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。				A		
		公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。				B		
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。				C		
		期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。				C		
		総合評価					B		
協働によって得られた効果		市の道路・河川等の美化を市民の方々に担っていただいたことで、「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」という意識が芽生え、地域コミュニティの再生につながった。市の支援は最小限に留めたことで、ボランティア意識の醸成や、将来的には市の経費削減にもつながることが期待できた。							
協働することで見えた課題		団体からは様々な要望があるが、その全てに対応することは予算の制約もあり困難である。また、本来市の管理すべき道路や河川の美化を行っていただいているため、もっと支援を充実させるべきなのか、ボランティア意識を高めるといった観点から支援は最小限にとどめるべきなのか、ジレンマがある。							
協働相手からの意見など		活動団体からは、「奈良市と協働することで参加者の意識も高まり、まちもきれいになった」「地域の繋がりを深めるきっかけになった」などの声があがっている。資金援助や花苗の支給など、もう少し支援を厚くしてほしいという意見もある。							